



「紙屋町シャレオ」の床石工事で信頼を獲得し、 県内外の大規模プロジェクトにも呼ばれるように

代表取締役 もりした やすひろ
守下 康弘 氏

「minamoa（ミナモア）」のタイル工事を担当

創業者は私の父でもある守下裕です。平和記念公園の原爆死没者慰霊碑を手がけたことでも有名な石工事の会社で施工管理の経験を積んだ後に独立。当初は他社からの依頼を請け、石工事を行っていたのですが、想定以上に要請が寄せられたため、会社を設立することになったようです。

転機となったのは2001（平成13）年に竣工した「紙屋町シャレオ中央広場」の床石工事です。地下街の交差点となる「中央広場」の床に使う予定だった石材入手が想定外に難航した際、英語もほとんど話せなかった父が一路ブラジルへ。現地のサポートスタッフと石の産地で直接交渉に臨み、石材の調達に成功したのです。その場所に訪れた日本人は父が初めてということもあって住人の方々から手厚い歓迎を受け、当時の関係者とは今も家族ぐるみのお付き合いが続いています。

工事も無事完了し、シャレオ中央広場は多くの人が行き交うにぎわいの広場に。以降は仕事ぶりをよく知る方のリピートや紹介という形でご縁につながり、地域の工務店や設計事務所のみならずスーパーゼネコンが主導する大規模プロジェクトに携わる機会も多くなりました。近年では猿猴橋の復元（2016年竣工）、広島市平和記念公園レストハウスの改修（2020年竣工）、下瀬美術館ならびに周辺施設の新築（2023年竣工）などに参画し、今春開業した広島駅直結の商業施設「minamoa」に関しては、タイル工事を担当。県外プロジェクトの依頼も継続的に寄せられており、東京や大阪などの大都市はもちろん、昨年は九州エリアでも複数の現場を任されています。

設計部門があるため「提案」できるのが強み

石材は自由度の高い素材で、形や質感・取り付け方法が多様にあり、組み合わせ次第で様々な表情を見せられます。当社で扱う石材は世界中の産地から調達していますが、我々が実際に現地に足を運んで確認しているため、コスト面や仕上がりについても詳細にお伝えすることが可能です。大判タイルも扱っており、時には要望に応じたオリジナルの床材開発にも対応しています。実は誰もがその名を知るファーストフード店の全国の店舗に導入されている床材は当社が納入しています。

また、新しい工法の技術開発にも積極的に取り組んでおり、10年ほど前にはプラスチック製のネジ状の専用器具でタイルを挟み込み、固定しながら施工する「フェイス・フィット工法」で特許を取得。施工精度を均一化できる特徴を持つこの工法は「minamoa」の床石工事も

採り入れています。

当社の強みの一つは、営業・設計・施工管理の流れを一貫してカバーできる体制を整えていること。建造物全体を担当するゼネコンに対してもプロジェクトに適した素材や工法の提案ができるため、重宝される場面も少なくありません。「景気の波に左右される」という業界の特性ゆえ、これまでに何度も厳しさを実感する出来事があり、実際に県内の同業者もこの数十年で半減しました。毎年、年度始めには「今期は果たして乗り切れるだろうか」という不安がよぎりますが、ありがたいことにご依頼は途切れることなく続いています。業務量や従業員の増加に伴い、5年前には社屋を移転。現在の従業員数は17人で、業界内、中国地方でも屈指の規模と評されるまでに育つことができました。

私自身は大学で土木工学について学び、他社で施工管理の経験を積んだ後に当社に入社。2014（平成26）年に現職に就任しました。仕事をするうえで事あるごとに父が口にしていた「プロ意識を持ってやれ」という言葉は忘れないようにしています。

30周年を迎え、今後の指針を描く中で強く感じることは「会社の規模を大きくしよう」というよりも「たくさんのお客さまと永くおつきあいたい」ということ。当社は従業員の半数近くが異業種からの転職組で、男性のみならず各部門で多くの女性も活躍しています。これから先も若い世代の人たちに入社してもらい、会社も業界も活性化させていきたい。そのために、働く本人はもちろん、親御さんの立場からも「子どもを安心して任せられる会社」であるように知恵を絞り、汗をかかねばと考えています。



当社ショールーム

DATA

- 社 名 株式会社ストーンオフィス・モリシタ
- 所 在 地 広島市西区三滝町7-4
- 創 業 1995（平成7）年7月3日
- 事業内容 石・タイル・れんが・ブロック工事
- 資 本 金 1,500万円
- 従業員数 17人